

編集・発行：福岡大学附属大濠高等学校新聞部

福岡市中央区大本松1-12-1

印刷：株式会社ハザマ印刷



2～4面	報道 部活動 剣道部、柔道部など
5面	大濠生特集 硬式野球部初の女子部員
6・7面	校内特集 他校との生徒総会比较
8・9面	特集 豪雨の被害
10・11面	戦後80年特集 被爆を語る
12・13面	特集 服部知事にインタビュー
14面	特集 高校生の地域活性化 行政が支援
15面	特集 靴磨き 自分を見つめなおす
16・17面	特集 地域猫 外で暮らす猫を支える
18・19面	特集 プラネタリウム 100周年
20面	校内特集 文化祭 耐震化工事で一般公開制限

展望台

筋萎縮性側索硬化症（ALS）という病気を聞いたことはあるだろうか。ALSは、まだ治療法がない後天性の指定難病だ。神経の異常により、徐々に全身の筋肉が動かなくなる。手が動く段階では筆談、口が動けば口文字、目が動くなら文字盤を使いコミュニケーションを取る。病気が進行すると、自分で呼吸ができなくなるため、気管を切開して人工呼吸器をつけながら一生を過ごすか、そのまま死ぬかを選択しなければならぬ▼ALSのドラマを観て私は、患者の立場になったつもりで気持ちを考えて、理解しようとす

る努力をやめてはいけなと思った。もちろん、その複雑な気持ちや感覚は計り知れず、完全に理解することはできない。意思疎通も決して簡単ではない。しかし「どうせ理解できない」「どうせ話せない」と勝手に壁を作ってしまったら、患者の孤独は深まることになる。体が痛い、呼吸ができないなどの助けを求める心の声に気づくこともできない▼寄り添うべき相手は、病気を持つ人だけではない。日頃、自分の意思を十分に伝えられていない人は少ないのではないだろうか。表に出せていない思いもたくさんあるはずだ。もし患者が目を見ても、こち

らが文字盤を使おうとしなければ意味がないように、一方が寄り添うことをやめた時点で、相手を理解することはできない。私自身、人と簡単に距離を取ってしまうことがある。その結果、無意識のうちに視野が狭くなっていると思う▼他人のことを理解するのは難しい。それでも「どうせ」と諦めるのではなく、相手の表に出ない思いを汲み取ろうとする姿勢を持つことが大切ではないだろうか。視野を広げること、避けることのできる軋轢もあると思う。できるだけ寄り添い、時間をかけてコミュニケーションを取ってみてほしい。

(原岡)

**金鷲旗ベスト8
強豪校に打ち勝ち
ベスト8進出**

柔道部は7月22、24日にかけて福岡市総合体育館で開催された第97回金鷲旗高校柔道大会にシード校として出場した。Fパート決勝で国士館(東京)を倒してベスト8の成績を収めた。

次鋒の鈴木太郎さん(2年)は4回戦の東九州龍谷戦(大分)で先鋒、次鋒、中堅の3人を抜いた。鈴木さんは「3人抜きは肉体的にも精神的にもきつかった。大将に良い形で持っていって良かった」と語った。

中堅の片桐慶次郎さん(3年)はすべての試合で中堅を務めた。「初日と2日目は副将と大将の体力を温存するため、中堅が頑張らなければならぬ。最終日には疲労が溜まっていたが、最後まで頑張った」と語った。

大将の竹下智哉さん(3年)は6回戦、準々決勝で3人抜きを決めた。今大会を振り返って竹下さんは「チームを勝たせることができてよかった。一人ひとりが役割を果たせたので、ベスト8の結果を残すことができた」と語った。



勝利への思いが強い竹下さん(右)
※写真はどちらも金鷲旗のもの

大会でさらに自信を持てるようになったと話した。さらに、竹下さんは10月7日の国民スポーツ大会に、福岡県代表の副将として出場した。竹下さんは全試合で勝利してチームを優勝へ導いた。(吉瀬、三木原)

**圧巻の勝利で
嬉しさと安心感**

バレー部は全九州私立高校大会で、予選・決勝トナメントともに全勝し優勝した。最終試合では、昨年の春高で準優勝した東福岡にストレート勝ちを収めた。背番号1番で出場した新山明さん(2年)は「1・2年のメンバーで出た初めての大会

だった。優勝できて、安心した。自分は言葉でチームを引っ張ることが苦手なのでできなかったが、みんなが声を出して支えてくれた。今後はバレーで魅せていきたい」と話した。(岩永)

30年たった一眨眼どう！福岡大学附属大濠高等学校同窓会

福大大濠高校 第73回大同窓会

・日時 令和8年5月9日(土) 受付開始14:00/開演15:00
・会場 福岡大学附属大濠高等学校

同窓会には以下の支部があります

関東、東海、関西、信濃、筑紫、久留米つづじ会、
◎懇談会や母校クラブの応援等を行っています。

会長 河邊 哲司 (21回卒)
事務局 福岡市中央区六本松1-12-1
TEL 092-714-1681
E-mail info@ohsa.jp
HP http://www.ohsa.jp

竹下さん 大会を席捲



「大学生になったらリベンジしたい」と話す片桐さん(右)

下さんは「必ず優勝する」という思いで臨んだ。プレッシャーに打ち勝ち、終わった後には喜びよりも安堵が勝った。盛大に応援をしていただき力になった」と振り返った。

片桐さんは2回戦で今大会優勝者と対戦し、敗北した。「研究や対策などできることはしたので、負けてしまったが、いい勝負ができた。自分の力が全国でも通用すると分かった」と話した。

また、竹下さんは9月14日に全日本ジュニア柔道選手権大会に出場し、100kg級で優勝した。今大会は20歳以下に出場権があり、竹下さんは4人の大学生を圧倒した。「優勝する自信はあったが、この大会でさらに自信を持てるようになったと話した。さらに、竹下さんは10月7日の国民スポーツ大会に、福岡県代表の副将として出場した。竹下さんは全試合で勝利してチームを優勝へ導いた。(吉瀬、三木原)

応援指導部 日本選手権5位 目標に向け一丸となり上位入賞

8月28、31日に国立代々木競技場にてJAPANCUP2025日本選手権が行われた。応援指導部(COOKIES)は、自由競技部門1に出場し、準決勝で210・5点、決勝で223点を獲得し、5位となった。これは技の難易度や

完成度、正確性、スピード感が評価される。また、チーム全体の笑顔や強靱性も得点に大きく関わる。準決勝では演技の中盤、3つのグループに分かれ、写真のような技を各グループで作る場面があった。しかし、中央のグループのトップの選手の着地が安定せず技のバランスがくずれ、決まらなかった。部長の秦英明さん(3年)は「技を決められなかったのは悔しかったが、すべて出し切るしかないという思いで臨めたと語った。決勝前はいつもと違う東京での練習でチームの雰囲気悪くなっていた。秦さんは「そんなときも目標だった5位に向けた思いがチームを一つにした」と振り返った。(川頭、七澤)

完成度、正確性、スピード感が評価される。また、チーム全体の笑顔や強靱性も得点に大きく関わる。準決勝では演技の中盤、3つのグループに分かれ、写真のような技を各グループで作る場面があった。しかし、中央のグループのトップの選手の着地が安定せず技のバランスがくずれ、決まらなかった。部長の秦英明さん(3年)は「技を決められなかったのは悔しかったが、すべて出し切るしかないという思いで臨めたと語った。決勝前はいつもと違う東京での練習でチームの雰囲気悪くなっていた。秦さんは「そんなときも目標だった5位に向けた思いがチームを一つにした」と振り返った。(川頭、七澤)

剣道部 玉竜旗 連覇 IH個人決勝 大濠対決 大濠剣道史に名を刻む



IH表彰式で並ぶ両雄
林さん(左)、森さん(中)

7月25、29日に福岡市総合体育館で第96回玉竜旗高校剣道大会が開催された。本校は昨年に引き続き優勝し、14年ぶりの連覇を果たした。

2回戦の大分上野丘との試合では、先鋒の亀山浩武さん(3年)が5人抜き、3回戦の関西(岡山)と6回戦の八女との試合では次鋒の野口拓秀さん(3年)が4人抜きを達成した。準決勝を勝ち進み、迎えた決勝では九州学院(熊本)と対戦した。先鋒の三宅陽一朗さん(2年)が3人で勝つも、その後相手の次鋒と引き分けた。次鋒の野口さんは敗れ、中堅の矢野佑紀さん(3年)と副将の林晃毅さん(3年)はそれぞれ引き分けた。大将戦では森大颯さん(3

年)が延長の末にコテを決め、優勝を果たした。

森さんは「延長戦では、皆のために竹刀を振るう、絶対勝つ、という気持ちで挑んだ。この大会でIHに向けての自信をつけることができた」と振り返った。また、林さんは「このチームで勝つことを目標にしていたので、優勝できてよかった。一人ひとりで優勝した。」

10日の個人準決勝では、林さんは8月7、10日にかけて広島県立総合体育館で行われたIHに出場し、個人で森さんが優勝、林さんが準優勝した。

団体と個人で森さん、林さんは8月7、10日にかけて広島県立総合体育館で行われたIHに出場し、個人で森さんが優勝、林さんが準優勝した。

とりが想像以上の活躍をしてくれたことが結果に繋がった」と語った。

目標通りの大濠対決

IH個人優勝・準優勝

団体と個人で森さん、林さんは8月7、10日にかけて広島県立総合体育館で行われたIHに出場し、個人で森さんが優勝、林さんが準優勝した。

9月29日に滋賀県の湖南市総合体育館で国民スポーツ大会が行われた。森さん、林さん、野口さん、矢野さんが少年部門の福岡県代表として団体で出場し、優勝した。(熊谷、原岡)

9月28、30日に行われた国民スポーツ大会に少年女子部門の福岡県代表として西本藍子さん(3年)と西田莉桜さん(3年)が出場した。西本さんは「8位以内で予選を通過できたがあと一歩届かなかったのが悔しい」と語った。(古庄)

冷凍食品製造・開発

ハちゃん堂

6回卒 川邊 隆

みやま市本社工場

ベトナム ホーチミン工場

新聞部 全国優秀賞

楽しめる
レイアウト作りを意識

新聞部は第29回全国高校新聞年間紙面審査賞の優秀賞(最優秀賞5校に次ぐ7校に与えられる賞)を受賞した。審査対象は一昨年の11月から昨年の10月にかけて発行された全ての新聞だ。昨年に引き続き2年連続の優秀賞となった。



部長の大坪和真さん(3年)は「新聞の制作には本紙NEXUSを印刷するハザマ印刷の方、取材に応じてく

部説
土台となる
情報の集め方

好きな情報、自然に入る情報、自分

最近ではテレビ離れが進んでいる。しかし、テレビは情報を得る上で重要なツールだと、私は思う。今年は戦後80年ということで、テレビではアジア太平洋戦争に関する特別番組がいくつも放送されている。我々も戦後80年の特集記事を作成しようと、部室で話していると顧問の先生が「みんな今年が戦後80年だ」と知ってるのか」と投げかけた。私は流石に皆知っていると思っていたが、数人が「今日の語で初めて知った」と言った。「テレビでやっていると」と言う、そもそも見ない人が多く驚いた。

テレビや新聞の場合、見たいものに辿り着くまでに色々な情報が流れる。戦後80年は流し見であつても目に

に留まるだろう。こうした情報はその時代の常識であり、会話の土台となる。手軽に見られるネットニュースを利用する人も多い。ただ、アプリによつて違うが、文字の大きさにメリハリがなく目に留まらない。また、タップして開かないと概要も分からず、流し見すら起こらない。そうすると、自然と入る情報は自分

左から大坪さん、白石さん、弥富さん

ださる方などが関わっている。多くの人とともに作り上げていることを意識して記事を書いた」と振り返った。

新聞を作るにあたり努力したことを聞くと、会計の弥富右恭さん(3年)は「先輩方から教わった様々なノウハウをもとに、より質の高い記事になるよう多くの部員と話し合いを重ねたこと」と語った。大坪さん、編集

長の白石夢さん(3年)は「読者の目を引き、読みたと思わせられるようなレイアウトを作ることだ。どんなに良い記事でも、それを読ませようとする工夫が無ければ読んでもらえない」と語った。また白石さんは「文字を読むことが苦手な人でも楽しめる記事になるよう、写真を多く配置した」と話した。(大山)

模型部 全国大会入賞
現地に通い
調整を重ねる

模型部制作の「森と海のあいだ」が全国高校鉄道模型コンテスト2025のレイアウト部門において理事長特別賞(全国5位)、JR九州賞、ベストライター賞のトリプル受賞を果たした。

松下遼弥さん(2年)は「福岡市地下鉄で新しく導入された4000系の姿を紹介したいと思い制作した。模型は設計図をもとに3Dプリンターを使って作成



走るバスは硬式野球部のものだ

弁論部 全国総文祭出場
柔らかい表情で
自分の思いを伝える

弁論部の大田勲胤さん(3年)は7月29・31日に、香川県の宇多津町で開催された全国総文祭に出場した。今回披露した弁論「余白を彩れ!」は1年以上前から準備していた。大田さんは以前から考えていたテーマの中から、一番熱意をもつて話せると思うものを選んだ。

当日の弁論について大田さんは「緊張しすぎず、楽しくできた。練習ではタイムオーバーすることが多かったが、本番では時間内に収めることができた。入賞できなかったのは残念だが、全力を出し切れた」と話した。弁論をする上で大田さんは抑揚をつけることを意識している。具体例や経験を話



全国大会では弁士同士の交流の時間が多く取られた

す際は表情を柔らかくし、笑顔で話すことを心がけている。「全国大会に出場し、たくさんの人に出会うことができた。全国の表現力が卓越した人々の前で弁論ができたことは、今後の人生でもきつと役に立つだろう」と笑顔をみせた。(高橋)

外務省職員が講演

7月16日、本校の大会議室で岩波由佳さんによつて「外務省職員による大塚生のための講演会」が行われた。講演では岩波さんが赴任したポルトガルやブラジルなどでの体験をもとに外務省の役割や外交官の職務が語られた。講演後には座談会も行われた。岩波さんは「言語に対して積極的になろう」と語った。(足立)

かるた競技部

小倉百人一首競技かるた第47回全国高校選手権D級の部
準優勝 田中節さん(2年)
3位 井崎理乃さん(2年)

您好!朋友

ニイハオ ポンユウ
〒810-0044

福岡市中央区六本松2丁目7-7 河津ビル1F

TEL092-(731)8458

リボリ
Rivoli
福岡市中央区鳥飼2丁目1-1
大塚公園前交差点角

材料費の高騰による商品の値上げ、申し訳ございません。

初の女子マネージャー 対話で部を支える副キャプテンに

大瀬史上初の女子硬式野球部員である波多江真佳さん（3年）は、昨年の夏から副キャプテンの一人として部を支えてきた。7月に引退した波多江さんに、3年間の振り返りと野球に対する思いを聞いた。
（七澤）

夏まで全ての練習・大会に駆けつけ やっと部員に

波多江さんは両親が共に野球の指導者をしてきたこともあり、生まれたときから、野球に囲まれた生活を送ってきた。小4で地元のソフトボールチームに所属し、中学では学校の軟式野球部で練習に励んだ。「野球に接するなかで、高校野球に携わりたいという思いが自然と出てきた」と波多江さんは話した。

マネージャーとして甲子園を目指すために、ある公立高校を目指して勉強したが、結局本校に入学した。本校の野球部は女子の入部を認めていなかったため、どうしたら自分が高校野球に関わることができるか悩んだという。

入学式直後に、野球部顧問の八木啓伸先生の元を訪ねた。これまでの自分の野球人生と、高校野球に携わりたいという思いを伝えた。八木先生は、練習が夜遅くまであることから、入部を断った。しかし数日後、思い



「2年間やりたいことをやらせてもらえて、感謝している」と波多江さん

冷めず、再び八木先生の所へ行く。「練習を見に来るだけなら良い」と言われた。波多江さんはそのときの思いを「嬉しかった。ただ、部員になれたわけじゃない。正式に部員として認めてもらえるように努力しよう」と思ったと振り返った。それから、全ての練習や大会、遠征に自力で駆けつけ、スタンドから見学した。練習場の草むしりもした。行動が思いを伝える第一歩になると信じた。

7月下旬、野球部が県大会で敗れた数日後、八木先生に保護者と共に呼ばれた。そして、特例として入部を認められた旨を言い渡された。波多江さんはそのとき「諦めなくてよかった。だが、役に立たないと入部した意味がない。これからチームに貢献できるように頑張らないといけない」と決心したそうだ。前向きな気持ちと同時に部員に受け入れてもらえるか不安もあったという。「同級生も先輩も話しかけてくれた。みんなの明るい性格のおかげで部に馴染めた。本当に感謝している」と波多江さんは笑顔で話した。

自分ができることを 考え続けた

硬式野球部では波多江さんの入部以前、故障した選手がノックの補助、道具の管理、練習場の整備などマネージャーの役割を担っていた。波多江さんは「自分ならマネージング一本に集中できるので、より大きく貢献できる」と思い、自分ですることを探したという。

練習では負傷中の部員とキャッチボールをしたり、試合では選手の打率などの成績を分析したりするようにになった。主将の東志恩さん（3年）は「数字を知ること、どうプレーを改善すれば良いか分かり、助かった」と語った。また、部員が遠慮なく何でも相談できるマネージャーを目指し、選手とは部活外でも様々な話をし信頼を深めた。

2年の夏の遠征中、部全体を俯瞰して見られていると評価され、八木先生から4人の副キャプテンのうちの一人に指名された。波多江さんは「さらにできることを増やしたい。部内のコミュニケーションを活性化させよう」と心がけた。そこで、日頃から下級生が困っているのを見つけると話を聞き、上級生に伝えた。

楽しくて仕方なかった 高校野球

高校野球を通して学んだことを聞くと、波多江さんは「コミュニケーションは大事だと実感した。野球はチームスポーツなので、複数人でまとまって一つの方向に向かわないといけない。これは難しいことだけど、コミュニケーションを活発に取ること、団結できた」と振り返った。

部を辞めたいと思ったこと



ベンチから選手に声をかける波多江さん（左）



「部員とはしょうもないことも言い合える良い関係」と波多江さん

はあるか尋ねると「ない」と言い切った。「野球が好きだから。やりたいことをやり続けた2年間だった。楽しくて仕方なかった」と笑った。

KIMURA

木村カバン店

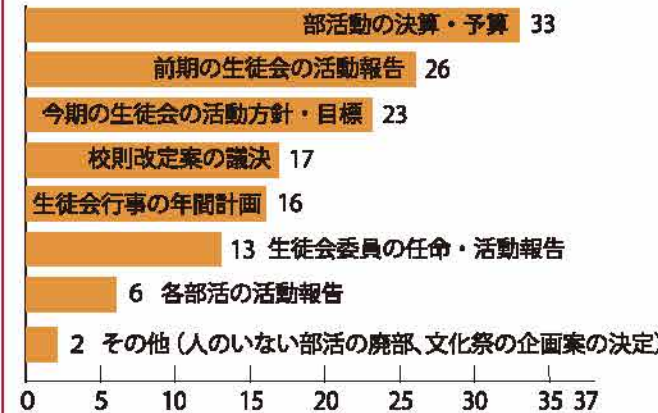
カバンならお任せを！
気楽にご来店ください！

福岡市中央区天神 2-9-114 tel 092-741-2429

生徒総会 2年連続の流会 道筋を明確にして多様な内容を議論する

全国論文祭新聞部部門で実施したアンケート
※参加校の代表一名ずつが回答

質問「生徒総会では、どのようなことを話し合っていますか？」に対する回答 複数回答可 有効回答 37校



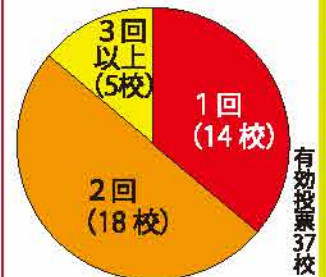
生徒総会当日 空席が目立つアリーナ

生徒総会当日、空席が目立つアリーナ。生徒総会では、どのようなことを話し合っていますか？という質問に対し、37校のうち33校が「部活動の決算・予算」について話し合っていることが分かった。また、17校が「校則改定案の議決」について話し合っている。生徒総会では、どのようなことを話し合っていますか？という質問に対し、37校のうち33校が「部活動の決算・予算」について話し合っていることが分かった。また、17校が「校則改定案の議決」について話し合っている。

生徒総会 他校の認識とズレ

我々は7月末、全国論文祭新聞部部門の参加校に生徒総会の実施状況に関するアンケートを実施した。生徒総会やそれに準ずる行事があるのは回答があった41校中37校だった(北海道2、東北6、関東11、中部6、近畿3、中国・四国5、九州4)。他校と本校の生徒総会の

4つ目の選択肢「数年に一度」の回答はなかった



来年は成立なるか
強制参加の可能性も

生徒総会があると回答した37校のうち33校は参加が必須である。本校のように

任意参加の学校はごくわずかだった。しかし、修猷館高校のように任意参加であったとしても生徒が集まり、成り立っている学校もあった。前生徒会指導主任の古園井淳先生と梅津先生に、本校が生徒総会を任意参加にしているのはなぜかと質問すると、両者とも「生徒に主体性を持たせるためだ。自分たちで学校を変えよう」と主体的に生徒総会に参加することが重要だと考えている。強制参加だとそんな意気込みはないのに参加する人が現れるので話し合いが成り立たない」と話した。本校では定例生徒総会を毎年1回、臨時生徒総会を常任委員会が必要と認めた場合、または全校生徒の4分の1以上、もしくはHJR代表委員会の過半数が必要と認めた場合に開催すると生徒会規約で定められている。しかし、本校では昨年まで長らくの間は生徒総会が開催されていなかった。今後の開催について梅津先生は「生徒たちの所属感を高められるため、できることなら毎年開催したい。もし執行部やHJR代表委員会強制参加にしたいとの声が上がれば、来年以降は強制参加でもいい」と話した。

生徒総会の改善案

他校の生徒総会の様子を踏まえた上で、今後の本校の生徒総会を意義あるものにするにはどうしたらいいのか、新聞部の提言を記す。

校則以外も話し合う

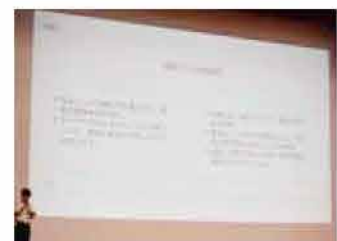
生徒総会で話し合うべき内容は執行部の活動報告、活動予定と、学校行事についての情報共有だ。大瀬生の多くは、生徒代表である執行部の具体的な活動内容を把握していない。また、今年の予備会には有志企画を募集しているが、行事説明がなかったため、1年生は予備会の存在や何をやる場か知らないのではないかと、1・2年の本校の生徒総

成立後まで見据えて

原案を作る

部は、生徒の意見を反映するために募集して決めた3つの議題、「放課後のスマホ使用許可」「髪型に関する

アンケートで「皆さんの高校の生徒総会がうまく開催できていますか？」と質問し、その理由も合わせて回答してもらった(右下表)。回答のなかで注目したのは、他校では執行部が原案を作成している点だ。本校の執行部も事前に議題から規約に書く文言までを構想した原案を作り、開催までにそれらを生徒に伝えるべきだ。



執行部生徒が議長を務めたが、本来は生徒からの承認が必要である

質問「皆さんの高校の生徒総会がうまく開催できていると思いますか？最も当てはまるものを一つお答えください」に対する回答 有効回答 37校

うまく行われている9校、そこそこうまく行われている13校

- ・執行部が生徒総会のために常に活動しており、基本的に生徒主体で行われているから
- ・毎年開催されているから
- ・毎回自由参加だがほぼ全員が参加し、活発に議論している

どちらとも言えない10校

- ・議題の詳細をあらかじめ聞かされることはほとんどなく、大抵の場合は賛成票が勝つから
- ・進行はスムーズだが、しっかり考えずに賛同する人が多い
- ・定期的に開催されているが、生徒総会の時間が短くて十分な議論ができない

あまりうまく行われていない2校、うまく行われていない3校

- ・進行が形式化されていて生徒の意欲が乏しく、原案が次々に可決されている
- ・生徒からの質問に回答するのは生徒会なのに、回答を先生が作っている

真の成立に向けて 集計方法の確立へ

執行部が欠席生徒の人数を出席割合の母数から外していた点に異議を唱えたい。出席者の集計方法は生徒会規約に明示されていないが、執行部はこの方法について生徒に伝えるべきだったのではないかと。このままだと、一修学旅行など学校行事や高3が登校しない3学期などに開催すれば簡単に成立する」と考える生徒もいるだろう。来年は集計方法の詳細を議題にすべきだ。

校内食堂
すずらん
いつでも ほんのりおいしく

- ・Aセット --- 530円
- ・Bセット --- 470円
- ・カツカレー --- 450円

桜坂にある音楽スタジオ
リハーサル レコーディング スタジオライブ 配信

STUDIOstaff
REHEARSAL&RECORDING STUDIO

学生割引

音響・楽器・照明機材、各種レンタル承っております。

CALL: 092-712-2208 福岡市中央区桜坂2-5-45

MANGIA

福岡市内、近隣地域
金額に応じて無料配達

092-531-9888
10:00~17:00受付
http://www.mangia.jp/
福岡市中央区小倉2-22-25

全力応援

キミの笑顔が原動力

福岡大学附属大濠中学校保護者会

〒810-0044 福岡市中央区六本松1丁目12番1号
TEL (092) 712-5828





11日の広島駅の改札口の様子

11日の広島駅の改札口の様子。多くの人々が立ち往生している様子が見られる。大雨の影響で、列車の運行が乱れ、多くの人々が駅に滞留している。特に、広島駅と博多駅間の列車は、ほぼ全てのJRの路線が止まった状態にある。

帰宅困難者で駅は混雑 本州から九州への交通が分断

広島で多くの 人々が立ち往生

8月10日には広島県で剣道一決勝が行われていたが、大雨のため部員はその日のうちに福岡へ帰ることができなくなった。大雨の影響により山口県、美祿川、以西の山陽自動車道が一日通行止めとなった。関門海峡を渡れなくなった部員は、大会の運営側が用意したホテルに泊まることになった。応援に駆け付けていた保護者は、一般道で十数時間かけて帰ったそうだ。新聞部も剣道1日と10、



新幹線を降りて博多駅の改札口へ向かう途中



券売機の行列が駅ビルの外まで続く

新幹線利用者は 怒りや不安

次の日も7時半から在来線が運転見合わせとなり、路線バスと新幹線を利用していた人々が、バスで待たされた。バスが来ても50人を越え、バスが来ても全員乗れず「おい！割り込むな」と怒声もあがる人もいた。駅で切符を買ったのに並んでいると新幹線が到着したため、駅員から「運賃は降りた駅で支払って下さい」と言われた。

駅員は 対応に追われる

11日の11時時点ではまだ九州新幹線が運転を見合わせていた。博多駅は広島

子さんたちも家族は、10日に愛知県から移動中、大雨の影響で新幹線が岡山行きになった。岡山で宿泊先を探したため、電話を手当り次第に、やっと見つけた。神野さんは「岡山駅は人で混雑して暑く、私と家族はイライラしていた。駅ではお土産などを見て時間を潰した。予定が崩れてしまったのが一番困った。新幹線の切符代がどうなるのか心配だ。これから飯塚へ行くが、在来線が動いていないため大変だと話した。」

TATEISHI

【大濠中・高等学校購買部】

株式会社 立石 売店

文具・学校指定・教科書・その他

TEL 092-753-7750



在来線が止まり博多駅築紫口でタクシーを待つ人々

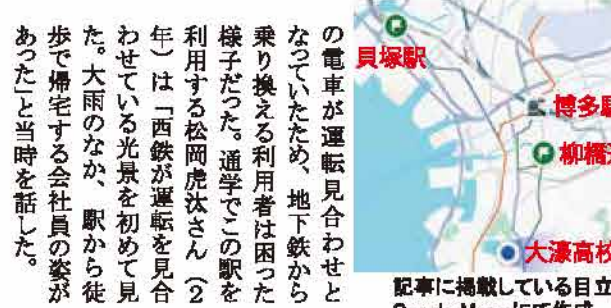


天神の道路はすねあたりまで冠水していた

大濠生にも 大雨の被害

東区に住む村瀬さん(2年)は、部活帰りに雨の被害に遭ったという。学校から家までは車で送迎してもらっていたが、帰りの途中で冠水により車が少しずつしか動かなくなってしまう。村瀬さんは「タイヤの半分くらいの高さまで水位が上がっていた。家の近くの川は氾濫しそうになっていた」と振り返った。

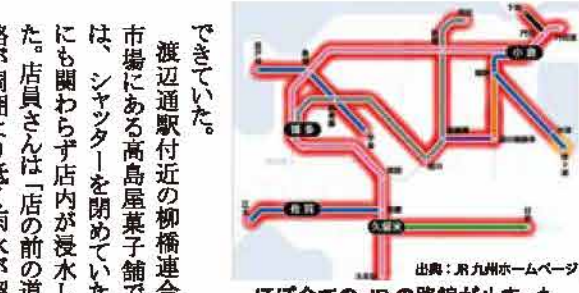
東区の貝塚駅では、地下鉄箱崎線は運行していたものの、接続する西鉄貝塚線が止まった。大濠生にも大雨の被害が広がっている。



記事に掲載している目立った被害があった場所 Google Maps にて作成

福岡の道路は 川と化す

8月10日の大雨は、三ッスでたびたび報道された宗像市や新宮町だけでなく、福岡市中心部にも被害をもたらした。渡辺通りや福岡サンパレスの近くは、道路が冠水して川のようになっていた。良のほか、普段めったに止まらない西鉄バス、電車が夕方ごろから運転を見合わせた。天神駅や博多駅では帰宅困難者が多く見られ、タクシーを待つ人々で行列ができていた。



ほぼ全ての JR の路線が止まった ※8月10日 19:45 更新

相次ぐ集中豪雨 県内各地で冠水などの被害

福岡県では、9月に入ってから局所的な集中豪雨が頻発した。9月15日には大野城市が大雨に見舞われ、イオン大野城ショッピングセンターでは、店内1階の床が水浸しになった。従業員は水を外に引き出す作業に追われていた。また、エスケーター周辺の床には、ベットのシートなど吸水性の高い商品を急遽開けて敷き詰めていた。

MEDETAIYA

070-8466-0676 medetaiyaropponmatsu

油山病院

精神科・内科

ストレス・うつのご相談/リワーク(復職支援)

〒814-0171 福岡市早良区野芥5丁目8番37号 TEL 092-571-2291(代)

医療法人 渡江堂 理事長 三野原 龍光 (S56年卒)

戦後80年特集

ヒロシマ・ナガサキを語り継ぐ人々

今年がアジア太平洋戦争の終結から80年になる。中東や東欧で核保有国を当事者とした紛争が激化している今こそ、被爆の実情や核廃絶への思いに耳を傾けるべきだ。被爆者の吉崎幸恵さん、中村国利さん、奥田三枝子さんと、高校生平和大使たち取材した。

(熊谷、原岡、松田)

「誰にも同じ思いはさせない」 死者に代わり核廃絶を訴える

「地獄は見ていない」 被爆の実態伝える

吉崎さんは現在、伝承活動に力を注いでおり、小中学校などに赴いて講話を行っている。その際、様々な被爆者から集めた体験をもとに、一人劇や詩の朗読をしている。

講話の始めには必ず「私は地獄を見ていない。死者の代わりにここに立っている」と話している。どんな惨状を語るのか、過度な期待を持たせず、想像を



「核兵器と生物は共存できない」と語る吉崎さん

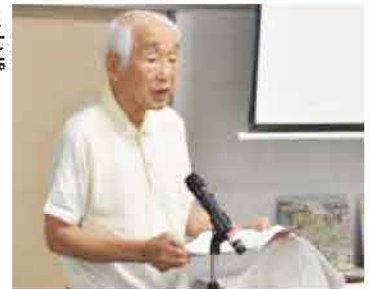
当てもしてもらった。仕事をしていた両親はいずれも胸と背中火傷を負った。爆心地から1.4km地点で被爆した従兄を探し回り、連れ帰ったものの血を吐いて9日後に亡くなった。ただ、自宅は爆心地から3.5km離れた場所、かつ熱線が山で遮られたため、さほど被害は大きくなかった。

1985年に吉崎さんは1ヶ月弱かけてアメリカ西部を回り、被爆の実情を訴えた。アメリカには原爆投下を肯定的に捉える人もおり、対応に苦心する場面もあった。「原爆投下は戦争を終結させたという点で人命救助だ」と主張する元オランダ兵と一晩中議論したこともある。話は平行線のままだった。

ただ、アメリカにも原爆を否定する人はいた。原爆開発の中心的存在だったオッペンハイマー博士の息子には「私の父は恥ずべきことをした」と懺悔された。また、原爆投下時に随伴機から気象や着弾の観測をしていたという元米兵は、まるで自分が原爆投下を指示したかのように責任を感じていた。吉崎さんはその真摯さに心を打たれて涙ぐんだ。

唯一の被爆国日本 核廃絶に力を

7月5日、草香江公民館で日本原水爆被害者団体協議会(以下、被団協)の中村さんが講演を行った。「唯一の被爆国である日本が、世界平和のために核兵器廃絶に力を入れるべきだ」と訴えた。



「戦争を自分事と考えると」と中村さん

中村さんは1歳のときに、長崎の爆心地から2.5km離れた地点で被爆した。14年前に被団協に入会し、今は九州ブロック代表理事を務めている。2024年10月、被団協はノーベル平和賞を受賞した。12月に行われた授賞式には中村さんも参加した。「被団協の代表のスピーチ後にスタンディングオベーションが起こり、心から感動した」と語った。

原爆から出る放射線はDNAを傷つける。奇跡的に生き延びた人も、原爆症によって若くして亡くなった。「彼らは亡くなる直前まで戦争さえなければ、原爆さえなければと毎日苦しんでいた。だが、政府は終戦後12年間も被爆者に手を差し伸べることはなかった。被爆者のなかには差別を恐れて被爆したことを隠している人も多い」と中村さんは語った。

高校生平和大使 被爆者の声を聞ける最後の世代



「原爆のままでなく自分の思いを加えて話すことが大切だ」と語る中村さん

直方高校2年の中村心優さんは、第28代高校生平和大使(以下、大使)の一人だ。今年には全国から24名が選出された。街頭で核兵器廃絶を訴える署名活動を行ったり、スイスで開かれる国連軍縮会議を傍聴したりしている。選挙の結果、福岡では大使に中村さん、長崎県修代表に6名が選ばれた。

中村さんは小学生のとき、ギターを教わっていた先生から平和の歌や大使について話を聞いた。中学生になり実際に長崎を訪れ、大使の話を聞いた。そこで小中学生に平和授業を行っていることを知った。そして、中学の校長先生に「授業に大使を呼んでほしい」と伝えた。結果、

その年に平和授業が実現した。それから、次は自分が伝える側になりたいと思った。そして、中3の冬から署名活動に関わり始めた。

中村さんは「昨年は活動に興味を持つ人が少なかったが、1年間活動が続けたことで声をかけてもらうことが増えた」と話した。また「被爆者の平均年齢は86歳を超えている。私たちが生の話を聞ける最後の世代だからこそ、学んだことをしっかり伝えていかないと」と意気込みを語った。

西南学院大学1年の藤野真悟さんは韓国にルーツを持つ。昨年は長崎修代表として、韓国人被爆者の存在を伝えることを主軸に平和活動に取り組んだ。現在はOBとして参加している。高校生になったとき、韓国人被爆者を支援する父に影響され、自分の力で新しい活動をしたと思った。8月の長崎研修では、韓国の高校生の引率と通訳を行った。藤野さんは「日本だけでなく、世界を巻き込んで活動する必要がある。自分はその架け橋になりたい」と語った。

96歳 初めて語る 広島市の被爆体験

「忘れちゃいますよ、歳とったら」「悲惨な経験、えっと喋らん。よう聞かれる人なら思い出すことも多からうがねえ」今回取材をお願いした、奥田さんは初めて被爆体験を人前で語った。

原爆で弟失う 骨すら見つからず

奥田さんは16歳のときに広島で被爆した。そして、最も歳の近い弟である茂さん(当時14歳)を亡くした。「骨も抱かれん死に方して残念です」と悲しそうに話した。

1945年8月6日、茂さんは爆心地に近い土橋で建物疎開に従事していた。その日、奥田さんが住む江波は夏祭りの日だった。朝7時ごろ、母が茂さんに「今日は祭りじゃけえ早う帰らんさいよ。」と催促を

していた。原爆投下の瞬間は、朝礼のため外にいた。辺りが一瞬真っ暗になり、大きな音とともに空に炎が高く広がって火の玉が浮いていた。すぐに工場内に入り、みんなであうずくまった。数時間後に解散となり工場の門を出ると、服が焼けて皮膚がぼろ布のように垂れ下がりがりながら歩く人々を見た。「驚きと同時に気の毒で……」と奥田さんは語った。いつもの渡し船で対岸の江波に渡ろうとしたところ、船はあまるもの船頭がいなかった。「市街に向かえば橋があったが、近づくのは恐ろしかった。もし行ったら、さらに悲惨な人を見ていたかもしれない」と振り返った。友達4人でどうするか相談していると、作業服の男が来て船を漕いで渡してくれた。



広島市周辺の地図。地理院地図より作成

中心市街地は破壊、郊外の病院・学校へ帰宅すると家の窓と柱が壊れていた。母は被爆したとき、ヤミ米を届けてくれた親戚と縁側で会話中だった。爆風で飛んできたガラス片で、唇などに傷を負った。三菱工場の医療所で縫合してもらったが、その日は帰宅できなかった。一緒にいた弟2人のうち、4歳の弟は足の筋肉にガラスが入り込んだ。その後1週間ほどは奥田さんが手を引き、徒歩1時間ほどの横川、さらに電車で古市の病院まで行った。父は向洋の工場に勤めており、無事だった。

7日、帰ってこない茂さんを探しに、奥田さんは父と土橋へ行った。動けない人や倒れて亡くなっている学生を一人ひとり確認した。父はさらに10日ほど、被爆者が収容された似島まで探し回ったが、茂さんはいなかった。茂さんの同級生が江波に帰って来たが話ができる状態ではなく、しばらくして血を吐いて亡くなった。

我々は広島市現代美術館でこの夏にあつた特別展「記憶と物」に足を運んだ。被爆者の声を集めたアートプロジェクトの参加者による匿名の座談会の記録に、次のような記述があった。

語られることが全てではない 想像力を働かせて

インタビューで話してくれ

と有り難い。だけど、どう

しても、やっぱり話せないこ

とが膨大にあつて、話せない

と、話したことはそのほんの

一部だつて、断片的な情報

から感じます。私のある親

戚が、すごい被爆体験をし

ていると母からなんとなく

聞いていた。でも本人は一切

話さなかったし、母も「被爆

した人は言わんげん」と、

あえて語らせろことはない。

これはよく広島の人がつぶ

やく言葉です。

本心に語れないことって

いっぱいあるんだけど、語ら

れたことを繋ぎ合わせて、

想像するしかない。だから、

残された情報とかインタ

ビューの記録とかっていうの

は大切なんです。だけど同

時に、そこには膨大な語ら

れなかったことがあるんだろ

うなと、考える必要もある

んだと思います。

奥田さんのように、被爆

体験を思い出すのが辛く、

語らない被爆者は多い。吉

崎さんは「小中学生への語り

ではグロテスクな話は避け

るを得ない」と語った。ま

た、一番ひどい惨状を見た

であろう爆心地付近の被爆

者は早くに亡くなっている。

被爆者が語る内容です

ら、あつたことの全てでは

ない。私たちが知り得る情

報が全てではないことを理解

した上で、想像力を働かせ

ることが大切だ。

100th Anniversary since 1916
株式会社 積文館書店
〒811-2204
福岡県糟屋郡志免町田富1丁目1-1
(外南郡)
TEL 092-957-7600
FAX 092-957-7611
読み継がれて100年
＜メディアを通して豊かさを創造する＞

医療法人 脳神経外科
クリニック高木
脳ドック
機能訓練室あり、MRI撮影対応
理事長 **高木 忠博** (S43年卒)
福岡市早良区弥生1丁目4番8号
☎092-844-1211

「未来をつくる高校生チャレンジ」 令和7年度の採択プラン

過疎地域へ行く！～身近に感じる地域の魅力～(福岡県)次ページ14面を参照。

地域活性化

世代をつなぐみんなの朝食会【あさ結い】(西南学院) 地域コミュニティ活性化と多世代交流を目的とした朝食会を開く。

食の魅力発信隊 (東福岡)
担い手不足を解消するため、学生に向けた各職業の魅力発信動画を作る。

社会問題の解決

RE:Farm (純真)
遊休農地の削減と世代間交流の活性化を図るため、農地を所有する高齢者と若年層のマッチングの仕組みを構築する。

～忙しい福岡のみなさんへ～「ボトルアクアリウムで学びと癒しを」(早稲田佐賀)
環境問題への関心を高めるため、川でゴミ拾いや採集したエビでボトルアクアリウム作り体験などを企画する。

ワンヘルスの推進

わんわんワンヘルス～盲導犬の来店拒否をなくそうプロジェクト～(筑紫女学園)
盲導犬来店拒否をなくすため、ふれあい企画や店舗に向けた啓発などを行う。

食品ロスをなくそう！使い切りレスキュー大作戦～加工と学びで未来を変える～(東筑)
食品ロス削減のため、ドライフード作りを体験できるワークショップの開催や食品ロスに関するパンフレットを作成する。

未来をつくる 高校生を応援

知事の質疑応答

これまでチャレンジに参加した高校生は、どのように成長したと思われるか。

3月末の成果発表では、高校生がチームで協力して

未来をつくる高校生チャレンジ

「未来をつくる高校生チャレンジ」は令和4年度から福岡県が進めている事業だ。毎年4・5月に県内の高校生から地域活性化、社会問題の解決、ワンヘルスの推進の3つのテーマに関する取り組みを募集している。採択されたプランは1件あたり最大50万円の助成と、各テーマに応じた専門家の助言を受けられる。

今後の採択数を増やす予定はありますか。

今年度は過去最大の45件の応募をいただき、その中で7件採択しました。プロジェクトを開始した令和4年度の応募数8件と比べておよそ6倍となっており、非常に

採択されたプランはどのようなものですか。

取り組みという実践力を身に付けたと聞いています。また、個人の参加者も周囲で協力してくれる方を見つけた際に、コミュニケーション能力を身に付けられたのではないかと思います。そして参加者はチャレンジのなかで失敗を重ねるうちにそれを恐れず、成功のために何度も繰り返し返しているようになっていると思います。

このチャレンジで支援した高校生が進学や就職で東京に流出することについてどう思いますか。

もちろん私たちの希望としては様々な経験を積み上げてほしいという思いがあります。ただ、それぞれの人生があるなかで、皆福岡に残るとは限りません。福岡から東京へ流出する20代が多いのは、専門的な技術職や情報サービス業が東京圏に集中していることが理由だと思っています。みなさん

服部知事にインタビュー 高校生を支える県政

服部知事 充実した教育環境を

8月19日に福岡県庁で、県内の高校新聞部へ向けて知事の見聞が行われた。服部知事は「未来をつくる高校生チャレンジ2025」などについて質疑応答した後、担当部署から事業説明があった。また、県政記者による講習や県庁見学を通じ、県政について取材した。

(秋山、古賀)

知事のもとで行われた高校生向けの施策の中で、やって良かったと思うものは何ですか。

県立高校への一人一台タブレット端末の配布です。一期目就任後、ICTの力で県内どの学校でも充実した授業や教育を受けられる環境作りを仕掛けてはならないと思いました。当時の県立高校では3、4人で一台のタブレット端末を利用していました。40億円以上の費用が掛かるため、議論もありましたが、無事1年で一人一台配布することができました。また、私立高校には補助金という形でタブレット端末の配布を支援しました。

その後、現場の教員から回線が繋がりにくいとの声がありました。今後は無線のアクセスポイントやインターネット回線を増設します。また、生徒が使えるソフトを増やすため教育委員会と知恵を出します。 普段はどのようなお仕事をされていますか。 一つは予算編成。ただお金を積み上げるのではなく

医療などの社会福祉のための費用や、8月9日からの大雨のような大災害に備えるためにはインフラ整備が必要であり、そのための予算をしっかりと組む必要があります。また、そのような施策・事業を執行するのにもハードルが高いです。それを解決し、繰り返すことが行政であり、行政の大切なこととは継続性だと思っています。県民が安心して生活できるように施策・事業を安

定させつつ、新しいことにもチャレンジしていきます。その他にも各国の大使やスポーツ・文化・芸術関係の人たちにお会いしています。知事は元々県職員になろうと思いましたが、

将来の夢は漠然としていました。ただ、自分の気持ちのなかに何か国のため、公共のために何かをしたいという思いがありました。

大学の法学部で法律を学び、公務員は親和性があると思い選びました。もし公務員になつていなかったら、歌手かな。は、違うね。父が会社を経営していたから、その取引先に就職していたかもしれないですね。

副知事から知事を志したきっかけは何ですか。

令和3年2月に小川洋前

知事が病気のため任期途中で職を辞されました。当時は新型コロナウイルスがまだ軽微化しておらず、まさに非常事態ともいえるときでした。人々の命を守る、健康を守る、生活を守るという行政の使命を果たすため「ここが俺がやらなきゃどうする」という思いで立候補を決意しました。任期4年のうち半分がコロナに追われ、コロナが落ち着いたからには「未来をつくる高校生チャレンジ」のような将来に向けた施策に取り組みました。しかし、たった2年ではやりきれないと思い、2期目を決意しました。 知事が好きな曲は何ですか。 「翼をください」です。皆さんは音楽の授業で習ったと思いますが、私が高校生のときは流行曲でした。私が小倉高校で生徒会役員をしていた代から、任意参加だった文化祭を全員参加に変えました。その文化祭フイナールに皆で歌いました。「悲しみのない 自由な空へ翼はためかせ 行きたい」という歌詞に心打たれ、今も印象に残っています。 高校時代、何の部活動に所属していましたか。 友達にバドミントン同好会を作ろうと誘われ、弓道部を辞めて参加しました。まさかあんなにきついとは思いませんでした。また、文芸部や写真部に顔を出していたときもありました。

県政記者 伝える使命感を大事に

県政記者は、毎週火曜日に行われる知事の定例会見や県議会を取材し、県政の動きを報道する。朝日新聞社の県政記者の福岡万穂さんは「政治の報道も普段の記者を書くのと同様に、対話を通して記事を書くことが大切だ」と語った。また、RKB社の報道記者の下濱美有さんは「アナウンサーが読む原稿を1分以内にまとめるために、伝えたいこと、伝えなきたいことを4文程度に収める。テレビは新聞と違って映像があるため、見て分かることは書かない」と話した。

事業の概要説明

当事業担当の青少年育成課によると、令和7年度は

県庁へ見学や傍聴に行こう！

11階にある福岡よかもん広場。県の伝統的工芸品や民芸品が展示してあり、立ち寄り申請無しで観覧できる。

風格ある県議会議場。一昨年から親子傍聴席を設けている

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト株式会社

福岡支店

福岡市博多区綱場町1-1 D-LIFE PLACE呉服町8F
TEL:092-281-4891・FAX:092-281-4899

思い出の旅をお手伝いします

いし原

大瀬高校 NHK

かつ煮井

福岡市中央区六本松1-3-18

古原医院

幸雄会

理事長 古原 雅樹 (第17期卒)
更生医療指定医

MAIL info@kohara-clinic.com
TEL 092-431-5622

〒812-0014 福岡市博多区比恵町18-1

内科

循環器内科 アレルギー科
人工透析内科 腎臓内科

小児科

小児科

地域活性化に取り組む

高校生の奮闘

13面で取り上げた「未来を作る高校生チャレンジ」のような制度を利用して、社会事業を立ち上げる高校生が増えている。福岡養業高校1年生の山崎蒼生さんと、香川県の英明高校3年生の亀井通加さんに取材した。

(熊谷、古賀)

特産品で発信する 村の魅力

養業中学2年生のとき山崎さんは学生団体BPCを立ち上げた。主に朝倉郡東峰村の特産品の販売や魅力発信を行っている。

きっかけは自分の曾祖母の家を訪れたときに、美しかった田舎の風景が空き家や耕作放棄地だらけになつていったことだ。そこで、福岡の過疎地域を調べ自分たちに何ができるのかを考え、東峰村の商品を文化祭で販売することを思いついた。

山崎さんは小石原焼窯元である「やままる窯」を一人で訪れ、商品を販売させてもらえないか交渉した。「最初はとても驚かれたが、熱意が伝わり受け入れてくれた」と振り返った。それから紹介してもらった他の窯元や地域の物産館とも協力し、棚田米やパーマクーヘンなどを文化祭で販売した。手応えを感じた山崎さんは、BPCを立ち上げた。また、BPCの活動を広めるため公式Instagramを開発している。

美しい風景、観光地などを随時発信していきたい」と語った。BPCは「未来を作る高校生チャレンジ」に採択された。山崎さんは「審査会のときに小石原焼を持って行き、審査員に触れてもらったことが採択に繋がった。県からの補助金のおかげで、今まで出店費用が高くて諦めていた福岡市内のイベントにも参加できる」と話した。山崎さんは「小石原焼などの伝統的工芸品という点、値段や格調が高くて自分には関わりの薄いものだと思う人もいるかもしれない。しかし今では千円台の手頃な価格帯の商品も多く、日常使いにも適している。ぜひ手に取って身近に感じてほしい」と笑顔を見せた。



トリアス久山での出店は大盛況だった



商品の輸送を家族総出で行う山崎さん

高松盆栽を若者にPR 高校での驚きが生んだ地域活性化

亀井さんは、若者にも高松盆栽の魅力を広めるべく「盆栽と言ったら高松だろ！」を掲げて、地域サークル「かみんぐ」を設立した。活動の起りは、高松市が主催している「たかまつ政策アイデアコンテスト2024」にクラスの友達と応募して、アイデア賞を受賞したことだ。



7月のイベントには小学生6人が参加した

盆栽の産地である鬼無地区出身である亀井さんは、高校の友達が高松盆栽をほ

んど知らなかったことに驚いた。鬼無地区では小学校で1人1鉢、盆栽を育てていたほど盆栽が身近だったためだ。高松市は全国シェアの約8割を占めるほど盆栽生産が盛んだ。だが、その実は県内の人にもあまり知られていない。亀井さんは「盆栽は高齢男性の趣味、というイメージが強い。若い人に向けてSNSを活用したり、盆栽を剪定するときの音を使ったASMRを企画したりしている。また、盆栽で一般的に使われる黒松以外の木を使ったり、かわいらしい鉢を使ったりするなどの工夫も凝らしていきたい。盆栽への硬いイメージを払拭し、若い人の興味を惹けるように頑張りたい」と笑顔で語った。



「盆栽を盛り上げてほしい」と語る亀井さん

ravi

tel 092-753-4800
address 810-0044
福岡市中央区六本松3-6-7
MODERN ASPIRATION
六本松ビルズ101

六本松散歩
ROPONMATSU WALK

六本松近郊のグルメ・イベント・お得な情報を発信中！六本松のことがもっと好きになる地域情報サイトです。

Instagram
@rokusyoren

六本松商店連合会

六本松散歩 検索

北九州空港の靴磨きおじさん 無償で行う汚れ落とし



「自分で考え、動く『考動』が大事だ」と語る松石さん

北九州空港に時々現れる「靴磨きおじさん」こと松石慎己さん。松石さんは航空会社スタッフライターの元社長である。退職後、空いた時間を使って靴の「汚れ落とし」を無料で始めた。靴磨きはプロのするもので、自

分にすることは靴の「汚れ落とし」だという。松石さんには社長時代から大切にしている言葉がある。江戸時代の良寛和尚の「俺が俺の『我』を捨てて、おかげおかげの『下』で生きよ」という言葉だ。松石さんは「自分のため、金のために動くことも重要だ。しかし、自分で考え、他人のために動き続けることも大事である。物事を続ける秘訣は行動に価値や喜びを見出すこと。靴の汚れ落としで一番嬉しいことは、お客さんが喜んでくれることだ。体が動くうちは続けたい」と語った。

毎年ロンドンで開催される靴磨きの世界大会で西上さんは優勝経験がある。西上さんは靴を磨く際、光の当たり具合など全体のバランスを考え、あえて照からせない部分を作っているという。より靴を美しく魅せられるよう、工夫を凝らしながら磨

いているのだ。靴を磨くことはただの単純作業ではなく、様々なことに気を配る必要がある。「靴磨きをやっていると、色々なことに興味が湧き、普段気になけないような物事に気づくことができるようになる。その気づきが仕事や趣味などの

また、身だしなみを整える際、靴はスーツや髪型と比べて、後回しになりがちだ。だからこそ、靴を磨く人は隅々まで物事を気にかけているという印象を持つてもらおうことができる。

靴に目を向けると 気づきを得られる

勉強や部活などで多忙な日々を送っている大濠生が多いだろう。そんななかで周りの人の気遣いや身だしなみ、ものの扱いを疎かにしてしまっていないだろうか。今回、靴磨きのプロである西上悦弘さんに取材して、改めて自分の態度を見つめ直した。

(吉瀬)

プロとして伝えたいこと 靴を磨いて自分を磨く

成功に繋がる」と西上さんは語った。普段から自分で靴を磨いている人や、専門店ですぐに磨いてもらっている人から見ると、靴の汚れ具合でその人の性格や人間性を読み取ることができるといふ。「特に企業の社長など重要な役職に就いている人ほど、日常的に靴を磨いているため、自然と相手の靴を見ている」と西上さんは話した。



西上さんが磨く前(左)と後(右)



「靴磨きは特別なことではない。習慣として行ってほしい」と語る西上さん

人生の相棒 を育む

靴に限らず、自動車や家電など、工業製品には製造した国や地域の文化が反映される。大濠生が普段履いているローファーも現代日本の文化が反映されている。学校指定のローファーは表面に特殊なコーティングが施されており、手入れの際使うクリームが浸透しにくい。また、靴底を接着剤でくっつけるセメント製法で作られている。靴底の交換が難しく履き潰しが前提となっている。「日本製の靴は、なるべく安価で壊れないよ

う丈夫に作られているが、壊れたら修理せず捨てることを前提としている。一方、欧州製は壊れることを前提に作られており、その分購入後のアフターサービスや補修が手厚かったり、自分で簡単に修理できたりし、手入れしながら長く使うことを意識している」と西上さんは話した。かつて日本にも欧州のようにものを修理し、長く使う文化が根付いていた。しかし、徐々に使いついて文化が根付き、ものを大切にすることが減っている。本校職員室の忘れ物・落し物コーナーにたくさんのもので、大濠生のものへの思いの表れだろう。しかし、ものを大切に長く使うことは自分の生きた証となる。「ものを長く使っていると傷がつく。だが、その傷の一つひとつが思い出となり自分の歴史の蓄積となる。私は結婚式のために購入した靴を大切に、今でも大事な場面に使っている」と西上さんは語った。



焼肉専門
TANAKA
精肉店

福岡市中央区六本松1丁目10-3

tel 092-731-2177



@TANAKA_SHOUNIKUTEN_STAFF

※お弁当購入時に本紙持参でお肉29%増量致します!



医療法人

畠山内科胃腸科クリニック

〒810-0024

福岡市中央区桜坂1-3-31

(地下鉄七隈線「桜坂駅」より徒歩1分)



TEL & FAX

092-761-7453

院長 畠山 定宗

耳より見 美容院界の ファーストクラス

六本松航空は護国神社付近にある美容院だ。待合室はファーストクラスのラウンジを、カッススペースは飛行機の機内を模している。また、本物のJALの販売ワゴンや金属探知機が置いてあり、お客さんは、まるで飛行機に乗っているかのように感じられる。

オーナーの島田航行さんは「お客さんにファーストクラスのようないらっしゃる空間でサービスを受けてほしい。だから、飛行機を店内のコンセプトにした」と話



美容院の中には飛行機（カッススペース）

スタイリストの金原愛珠さんは、CAの立ち振る舞いを意識してカットしている。金原さんは「お客さんにはワックシながら、非日常空間で至福の時を過ごしてほしい」と語った。（足立）

ど一緒に住むために必要な情報が書かれた紹介カードがケージに貼ってあった。新しく猫を家族に迎えた人はカードを見たり、保護主に質問をしたりしていた。

猫から子猫までいる。人にしておびえている猫もいれば、人好きでケージの外に出た瞬間に、飛びついてくる猫もいた。彼らは新しい「ずっと」の家族を迎えられ、幸せな猫生を歩む。



六本松航空

〒810-0044
福岡市中央区六本松2-30 1階
TEL 092-781-2000



hair Designer
金原愛珠

地域猫には 適切な餌やりが必須

地域猫活動では置きエサは厳禁だ。置きエサがあると、他の地域から流入して来た野良猫が勝手に食べて、その地域に住みつて繁殖してしまう。また、ガラスやイタチなどの動物を寄せ付けてしまう。そのため、ボランティアは猫がエサを、食べ終わるまでその場を離れずに見守っている。地域に暮らす猫を一匹ずつ確実に把握して、地域猫と流入してきた野良猫を判別することも、地域猫ボランティアの大切な仕事だ。

また、森さんはエサやりの問題について「エサを与える人がいるから野良猫が増える」と誤解している人が多く、ボランティアが地域住民から非難されることがある。しかし、エサを与えられず栄養状態が悪い猫は、一度の出産で多くの子孫を残そうと多産になる。不妊手術された猫はエサを与えても増えることはないため、全ての野良猫に手術することが何よりも大切だと話した。



継続的に活動を行う大切さを強く主張した森さん

並みかそつていないことも深刻な問題だ。森さんは「活動が行われていない地域から、野良猫が流入して繁殖してしまうため、活動を行っている地域でも野良猫が減らない。広い範囲で活動したら問題の改善につながる」と強く訴えた。

野良猫を健康に 獣医のサポート

明永さんは、野良猫の不妊手術を専門に行う「なな。猫達のための病院」の院長だ。忙しい月では100匹もの野良猫に手術している。一般の動物病院では手術前に麻酔の耐性などを検査するが、明永さんの病院では検査しない。「検査しないと手術失敗のリスクは大きくなるが、野良猫にとっては検査自体が負担にもなる。また、検査を省くと手術費用を安くできる」と明永さんは説明した。

野良猫の診察は普通のペットと比べると困難だ。基本的に野良猫は人に慣れないため、動物病院での検査のときに暴れてしまう。また、人に慣れている野良猫は、縄張り争いやエサの取り合いなどで他の野良猫に負けてしまい、長く生きることができない。「だからこそ、人に慣れている猫は保護猫になれば、と思いつながら手術している」と明永さんは語った。

調や与える薬等をLINEで写真を送ってもらい確認している。外で暮らす猫が動物病院に連れて行かれることは少ないため、対応が早いと症状の悪化を防ぐことができる。

「猫の島」として有名な新宮町の相島は、以前は猫の手術どころか健康管理もされず、島民の数より猫の数が多かった。子猫の死体が多量に多くあったという。相島の野良猫は不妊手術手術を施され、4年間で約250匹から、約100匹ほどに減った。中間さんは定期的に相島に通って地域猫の診察を行っている。



Xやってる？→
K-POPトレカ
参考書 マンガ アニメグッズ DVD
ブックオフ福岡六本松店
1000~2000

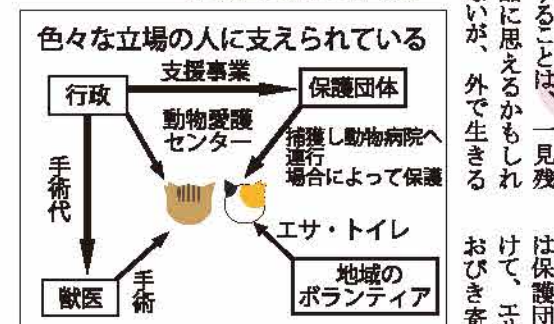


ゲームソフト
売れる、買える
ポケカ
ゲーム王
デュエマ

人に見守られて 生きている地域猫



耳が怪型に切られている猫



野良猫に対する取り組みは保護団体の人が依頼を受けて、エサの入った捕獲機におびき寄せて捕まえることから始まる。猫は夜行性のため、夜に捕獲機を設置する。翌日、事前に予約しておいた動物病院で捕獲できたネコに、不妊手術手術を行う。回復後、健康な猫や人に慣れていない猫は、捕まえた場所

福岡市は、令和5年に「飼い主のいない猫等の不妊去勢手術推進事業」を始め、野良猫が多くいる地域の町内会や、地域猫・保護猫活動に従事する個人や団体、猫の多頭飼育崩壊が起きている現場の人に対して、無料で不妊去勢手術ができるチケットを年に1度、抽選で計1600枚配っている。

野良猫を助ける 厳しい環境で生きる

ペットとして家で飼われる猫の生物名はイエネコとい、大切に飼えば20年以上生きることもある。元々は鳥やトカゲなどを獲って食べて生きるヤマネコが、人間

不幸な猫をこれ以上増やさないため、加えて縄張りを示すときの糞尿や繁殖期の鳴き声などの、近隣住民への被害を減らすために、不妊去勢手術を野良猫に施すことが重要だ。添島さんは「外で猫が生き残っているのは奇跡だ。交通事故などですぐに死んでしまうため、長生きしない前提で考えている。不妊去勢手術をするのは、一見残酷に思えるかもしれないが、外で生きる

猫と人の幸せを 繋げる取り組み

野良猫に対する取り組みは保護団体の人が依頼を受けて、エサの入った捕獲機におびき寄せて捕まえることから始まる。猫は夜行性のため、夜に捕獲機を設置する。翌日、事前に予約しておいた動物病院で捕獲できたネコに、不妊手術手術を行う。回復後、健康な猫や人に慣れていない猫は、捕まえた場所

地域猫活動をする人は、猫用のトイレを設置したり、毎日適正な時間にエサを与えたりして生活を補助している。トイレを設置したことで、地域猫が決まった場所でするようになる。地域猫の糞尿被害は減った。また、安定してエサを得られるようになったことで、地域猫は5、6年生きられるようになった。



一匹でも多く 野良猫に不妊去勢手術を

みなさんは公園や路地裏で見かける猫をすべて「野良猫」と一括りに考えていないだろうか。実はそうした屋外で暮らす猫のなかには、人に保護されている「地域猫」がいる。地域猫推進団体「マチネコの添島久美子さん、一般社団法人ねこ99福岡の森真琴さんと、獣医師である明永佳子先生、中岡典子先生に取材した。（松田）

のペットとして馴化してきた生物だ。イエネコが飼いに放棄されるといわれる野良猫となる。外で暮らす猫は厳しい環境で生活するため長くても4、5年しか生きられない。カラスに襲われたり、病気にかかったりするため、8割ほどの猫は生後半年を経たらずに亡くなってしまう。

地域猫ボランティアの声

猫を増やさない。一代限りの命でも、ボランティアに愛されて幸せに暮らしてほしい」と話した。

手術のあと、オス猫は右耳、メス猫は左耳を桜の花びらの形に切つて目印にする。そのため地域猫は「さくら猫」とも呼ばれている。

見守られながらご飯を食べる小夏くん

本校の近くの梅光園緑道では、地域猫が15匹ほど暮らしている。夕方や夜の時間帯にボランティアが集まって、自分たちで名前をつけた地域猫にエサを与えてかわいがっている。ボランティアの横山けい子さんは「緑道にいる猫たちはみんな人懐っこくて、警戒せずに触らせてくれる。賢くて、人の言葉が分かっているようだ」と笑って話した。



docomo

ドコモショップ
六本松店
TEL: 0120-177-225
住所: 福岡市中央区梅光園2-40-1

言いたいことは色々あるが、続きはWEBで



矢野店長

投影機が紡いだ

100年の物語

黒子の投影機に
注目が集まる

2023/2025年に於いて、JICA(日本国際協力基金)によるプラネタリウム協議会によるプラネタリウム100周年企画が行われた。2023年10月21日に行われたオープニングイベントでは、全国36会場とドイツのミンデンにあるメイン会場をZOOMで繋ぎ、メイン会場でのイベントの様子をドームに投影した。また、ちょうど100年前のドイツと同じ星空を各会場に投影して、皆で同時に眺めた。2年間の企画は、プラネタリウム100年の歴史を振り返りながら次の100年について考えるイベントとなった。企画の実行委員長を務めた井上さんは「ZOOMで



全国の会場がリモートで繋がる

時間を共有する一斉イベントは新しい取り組みだった。プラネタリウムのこれからの可能性を提示できたと思う」と語った。

丹野さんはイベントを振り返って「100周年というイベントを業界の人たちだけでなく、一般の方々とも一体となって祝えたことが嬉しかった。中継で繋がった何千人もの人とともにハッピーバースデーを歌った。また、

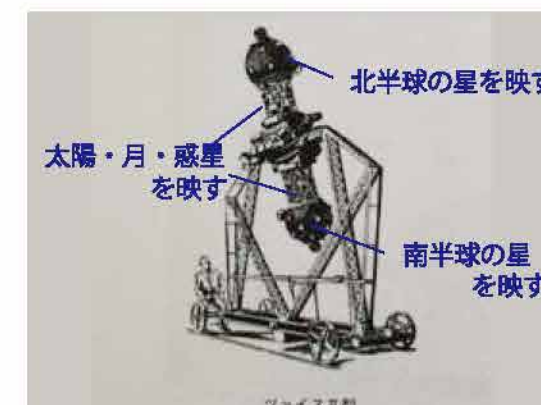


井上 敬

プラネタリウムの投影機が世に出てから100年以上が経った。この年間はさまざまなイベントが開催された。そこで、明石市立天文科学館の井上毅さん、福岡市科学館の丹野佳代子さんにプラネタリウム投影機の歴史やイベントについて取材した。(佐久間)

人類が星空を作った日

1923年10月21日、世界で初めてプラネタリウムの試験公開が行われた。ドイツ博物館の屋上に仮設されたドームには、満天の星が映し出された。居合わせた人々は驚き、称賛の拍手を送った。



1926年に発表された「ツァイスII」

※「星空をつくる機械プラネタリウム100年史」井上毅KADOKAWAより掲載

近代プラネタリウム誕生の物語は、ドイツの土木技術者オスカー・フォン・ミラーから始まる。ミラーは発明王エジソンが白熱電球を公開したパリ電気博覧会に参加し、技術の展示に強い関心を持った。芸術作品と同様、科学技術の発展も人類の文化功績として後世に残し、人々に知ってもらわなければならないと考え、ドイツ博物館をミンデンに設立するため協力者を集めた。ミラーは星空の仕組みを博物館内に持ち込むことを望んだ。光学機器メーカーであるツァイス社の技術者ヴァルター・パウワースフルトは、大きなドームの中央に星の光を出す投影機を配置する、という光学式プラネタリウムを提案した。従来の設計は、穴を開けた薄い鉄板で半球のドームを作り、ドームの外を明るくして星のように見せるものだったため、このアイデアは全く新しいものだった。1925年5月7日、ついにツァイスI型と呼ばれるプラネタリウム投影機が、ドイツ博物館新館の落成式と同時に常設される日を迎えた。

ツァイスの技術陣は、投影機をさらに発展させた。ツァイスI型は北半球の固定した緯度の空しか投影できなかったが、ツァイスII型は南半球の恒星も取り付けられた。ツァイスII型はその後、プラネタリウムの基本の型となった。ドイツ博物館のプラネタリウムの評判をきくにつれて、ツァイスII型はツァイス社製品を代表するベストセラーとなり、世界へ広がった。

星空に国境はない 来年福岡で世界大会

2026年6月、福岡市科学館でIPS(国際プラネタリウム協会)の大会が開催される。IPSは世界50ヶ国の約500名が加入する世界最大のプラネタリウム関係者の団体で、2年おきに各国都市で大会を開催している。日本が開催地に選ばれたのは大阪以来30年ぶり、2度目のことだ。

開催が決まった瞬間を振り返って、丹野さんは「来る！という興奮と、来るのか！という重責の気持ちが入り混じった。100周年を前に、新たなスタートを切る場所が福岡ということがプレッシャーだ。世界中のプラネタリアン(メーカー、学芸員、大学の先生、学生など、プラネタリウムに関わるあらゆる人)が一室に集まることも貴重な機会なので、何らかの形で市民にも還元したい」と意気込んだ。

30年前に大阪大会を推進した人の多くが現役を退く世代となっている。日本のプラネタリウム界としては、今実施しておかないと日本に大会の記憶がなくなってしまう、という危機感もある。福岡市科学館は様々な期待を背負っている。



2026年のIPSの大会開催に向けて準備が進む

福岡市科学館のプラネタリウム番組は、概ね3〜6ヶ月ごとに替わる。このうち季節ごとに上映している「宙語り」という番組は、企画から全て元教師や博物館の学芸員など、様々なバックグラウンドをもつドームシアターチームが作っている。この番組のナレーションは開館以来同じ声優にお願している。丹野さんは「声優さんは私が書いたシナリオに『このキラキラならこ

う言うと思う』『こゝろ変えていいですか』と一語にアイデアを出してくれ」と明るく語った。

番組は半年以上前から作っていく。『平面のパノラマで上で作った映像を球面状のドームに投影すると様々な問題が発生する。それを繰り返し手直しして作っていくため、6ヶ月あっても時間が足りない』と丹野さんは話した。

星に魅せられた2人が語る「星空の力」

丹野さんも井上さんも、プラネタリウムに興味を持ったのは仕事を始めてからだそう。星が好きで学芸員になった井上さんは「明石市立天文科学館に来たばかりのころは、新しい職場



「幼少期でほし組だったことも星が好きになったきっかけ」と話す井上さん

のプラネタリウムぐらいにしか思っていなかった。これが現在も稼働し続ける日本最古のプラネタリウムだと気づいてからは、歴史を紐解いて調べるようになった」と話した。

また、空の楽しみ方について「夕暮れを見上げてみてほしい。都内でも公園でも、広いところで一番星を探してぼーっとするのは良い。空の色の変化がすごく綺麗だ。時の流れの変化を感じるのすごくいい経験になる。1人でもいいが、何人かでぼーっとするのもお勧めだ」と笑顔を見せた。

丹野さんは幼いころ、小さな望遠鏡で月を見て天文に興味を持った。「追尾装置のついていない望遠鏡だと、見ている間に月が動いていく。それは声に出せない驚きだった。そこから神話の本などにも興味を持ち始めた」と語った。

高校生に向けて「疲れたら星空を見上げてみてほしい。昔から、人は空を見上げてきた。その時々で星の見え方は異なる。悲しいとき、辛いとき、見上げた空の星々に励まされ、勇気をもったように感じた」と話す

人も少なくない。夜に星を見るということは、宇宙を見ているということだ。私たちの体の元素は、宇宙の元素と同じだ。私たちの身体の奥深く刻まれた、遠い人類の祖先に会っているような気がするのかもしれない」と語る笑顔は暖かい。

化石などの古いものが好きな丹野さん

博多きょう重
ふぐ・あら・すっぽん
古賀大規 1998年卒
西鉄事院駅徒歩3分 営業:17:00~22:30(日曜定休)
福岡市中央区渡辺通2-3-24 TEL:092-771-1818

六本松食堂
〒810-0044
福岡市中央区六本松4-3-11
ビジネス・ワン六本松1F
旬鮮美味の海鮮料理!!
TEL:080-9145-3537

大塚中・高の学生服・ボタンダウン・シャツはお任せください!
男子も女子もOK
お問い合わせは
092-291-1178
福岡市博多区上呉服町12-230

山下商店
有限会社
代表取締役 山下倫生 (H3卒) 取締役 山下矩生 (S33卒)
企業ユニフォーム製造・販売(作業服・事務服・白衣)

一般公開に制限

昨年よりも少人数で開催

9月13・14日に文化祭が開催された。今年は耐震化工事のため、安全に配慮して来訪者は高3の保護者のみとなった。一般公開がなくなった今年の文化祭について、文化祭実行委員長の山下紗彌さん(2年)に取材し、文化祭後に実施したアンケートとともに振り返る。(吉瀬)

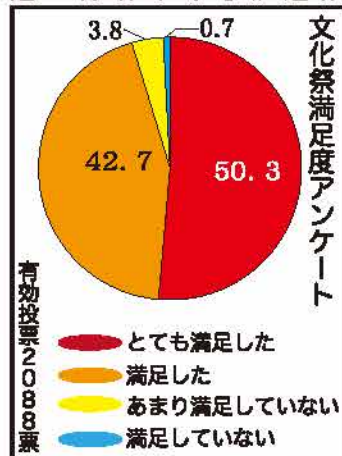
昨年の課題を克服も 満足度低下

アンケートでは「とても満足した」「満足した」と回答した生徒が93・0%と、昨年よりも4.1ポイント低い結果となった。このことについて山下さんは「一般公開が行われないことが1学期期末考査の直後に突然発表されたため、一般公開を楽しみにしていた生徒のモチベーションや士気を下げたしまった。その結果が満足度の低下という形で表れたのだ」と話した。

ろう」と語った。

今年は一般公開がなかったため、昨年より混雑が解消された。アンケートでも「来訪者が少なく、混んでいなかった」ので回りやすかったなどの回答が多く見られた。山下さんは「今年は特に問題なく終えることができた。人が少なかったのが冷房の効きが良く、昨年のように校内が暑くならず済んだ」と話した。また、昨年問題

また、昨年問題



となったゴミの散乱も改善された。今年はゴミステーションが、食品企画の開催された教職員用駐車場に続く道の途中に配置された。また、数人の執行部生徒が傍に立っていた。「来訪者も含め、食品企画を訪れた全員が必ずゴミステーションの横を通る経路にした。そのため自然とゴミを捨てるようになったのだと思う」と山下さんは振り返った。

食品企画会場変更 賛否分かれる

今年は工事のため、食品企画の会場が従来の中庭から北側の教職員用駐車場に変更された。アンケートの結果、65・6%の生徒が来年は中庭で行ってほしいと答えた。一方、食品企画に携わった高3のみだと中庭50・6%、駐車場49・4%と意見が半分に分かれた。来年は中庭で開催してほしいと回答した人からは「駐



賑わいを見せる食品企画

車場は校舎からの距離が遠く、行きにくかった」(高3)「中庭のほうが賑やかで良いと思った」(高3)などの回答が寄せられた。一方、来年も駐車場で開催してほしいと回答した人からは「中庭より広く、快適に過ごすことができた」(高2)「緑目のような雰囲気良かった」(高1)などの回答があった。

人気食品企画ランキング

- 1位 3年1組 304票
グランメゾン大濠(フレンチトースト)
2位 3年9組 249票
宮口の焼き鳥 バキバキに焼け!
3位 3年8組 149票
喉乾いてませんか?(ジュースなどの販売)
有効投票2003票
詳しくは新聞部公式Instagram(ohori_nexus72)で公開中



丁寧にフレンチトーストを焼き上げる

のこま漫画 by 果物時計草



編集後記

今年、私たちは第29回全国高校新聞年間紙面審査賞で優秀賞を受賞しました。私たちが在籍している間に、2年連続で受賞できたことを嬉しく思います。世間一般で、紙の新聞が読まれなくなっている現状は否めません。それでも、文化祭で普段話さない同級生や保護者の方が「いつも

NEXUS読んでます」と声をかけてくださいました。発行した新聞がたくさんの方に読んでいただけていると知って驚くと同時に、嬉しくもありました。これからも部の綱領である「大濠生を巻き込み、親しみを育てる新聞」を意識した新聞づくりをしたいと思えます。これからも応援よろしくお願ひします。(佐久間)